



Beyond KUSS , 2025 !!



国立大学の行方

中央教育審議会「高等教育の在り方に関する特別部会」で、慶應義塾の伊藤公平塾長が3月に「国公立大の学費を年150万円に上げるべきだ」と主張しました。また、5月には東京大学が授業料値上げを検討していることが報道されました。これについては先日、東京大学がコメントを発表しています。今月、国立大学協会が「国立大学協会声明 ー我が国の輝ける未来のためにー」を発表しました。先週後半には、「国立大4割に『女子枠』入試を導入『男女比偏り是正』」、「東北大学を『国際卓越研究大学』に」の見出しでメディアが報道しています。いつになく、国立大学に関する話題が多いです。

本校は、国立大学である神戸大学の附属学校ですから、神戸大学をはじめとする国立大学進学希望が多いのも不思議ではありません。第2回進路希望調査では学年の9割弱99名が「第1志望」として国立大学を考えています。

現在の国立大学は2004(平成16)年以降、「国立」と言いにくい変化が始まっています。例えば、神戸大学の先生方や私たち附属学校教員は、国家公務員ではありません。働き方についても、公務員法ではなく私立学校と同様に労働基準法が適用されます。国立大学は税金で運営されているのかというと、その比率は年々低下しています。神戸大学の場合、2022年度の収入に占める税金(運営費交付金)は208億7500万円で全体の約23%です。2004年度は246億9400万円で約43%でしたので、収入に占める税金の比率は約20%も減少しています。収入自体は570億5300万円から903億1300万円に330億円増加しています。附属病院収入が200億円以上、産官学連携及び寄附金が100億円以上の増加です。20世紀の国立大学とは、ずいぶん様変わりしている部分があります。

	校数	学生数			教員数	学生数÷ 教員数	学生数/校		
		学部生	大学院生	計			学部生	大学院生	計
国立大学	86	431,207	154,706	585,913	63,778	9.2	5,014	1,799	6,813
公立大学	102	145,683	17,796	163,479	14,807	11.0	1,428	174	1,603
私立大学	622	2,055,885	93,475	2,149,360	113,293	19.0	3,305	150	3,456
計	810	2,632,775	265,977	2,898,752	191,878	15.1	3,250	328	3,579
神戸大学		11,411	4,460	15,871	1,572	10.1	大学別の数字は各大学のHP掲載のデータより作成		
同志社大学		26,514	2,210	28,724	799	35.9			
立命館大学		34,092	2,688	36,780	926	39.7			
関西大学		27,722	1,951	29,673	801	37.0			
関西学院大学		24,314	1,365	25,679	775	33.1			

上表は2023年度の学校基本調査及び各大学が公表しているデータにより作成しました。国立大学よりも公立大学の方が多くです。国立大学教員1名あたりの学生数は、私立大学の半分以上です。大規模私立大学になるとその値はさらに大きくなります。また、国立大学の学生に占める大学院生の比率は25%を超えます。文系学部の比率が大きい神戸大学でも28%を超えます。国立大学が研究に力点を置いていることの表れです。

しかし、確実に人口減少社会に向かっていきます。それと同時に少子高齢化も進行していきます。これまでと同じ価値創造モデル、ビジネスモデルが通用しない時代になります。国立大学だけの問題ではなく、社会全体が大きな意識改革を必要とする時代です。みなさんも意識改革が必要です。「第1志望」の設定は大丈夫ですか。

大学に合格することも大切です。しかし、大学で学ぶことがもっともっと大切です。みなさんにとってふさわしい「第1志望」を設定しましょう。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS , 2025 !』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。